



かさの女王さま

ブリッジズ作 ユ絵 松井るり子訳 セーラー出版

なんびやくねんものあいだかさを つくりつづけてきた
村^{むら}がありました。どのかさも、村^{むら}の 女^{おんな}のひとたちが
いた花^{はな}とチョウで かざられ、まいとし 村^{むら}いちばんの 絵^え
つけをしたひとが、「かさの女王^{じよおう}さま」に えらばれます。
ある日^ひ、小^{ちい}さな ヌットも かさの 絵^えつけを まかされま
した。ヌットは ひるま、花^{はな}とチョ
ウを かいて はたらき、ゆうがたか
ら じぶんのかさに ほんとうにか
きたいゾウの 絵^えを かくのでした。
ヌットは あこがれの「かさの女^{じよ}
王^{おう}さま」になれるでしょうか。

